

「児童生徒の作品」

校長 森 勝義

4年2組 国語 単元「白いぼうし」感想文
「消えた女の子」

青砥 世那

ぼくは、「白いぼうし」を読んで、ふしぎな気持ちになりました。

なぜ、車に女の子がすわっていたのか。なぜ、女の子は松井さんに「早く行ってちょうだい。」と言ったのか。なぜ、女の子は消えたのか。なぜ、ふしぎな声が聞こえてきたのか。ふしぎなことがたくさん起きた理由をぼくは考えました。それで、ぼくは、あの女の子がちょうどだったのだと思いました。ちょうがぼうしの中にとじこめられたところを松井が助けました。ちょうは、なか間のところに帰りたかったのだと思いました。男の子は、ちょうがいなくなってかなしかったと思うけれど、松井さんが、かわりに夏みかんをあげたから、きつとうれしかったと思います。

さいしょに「白いぼうし」を読んだときは、おばけの話かと思いました。何度も読んでいたうちに、女の子はちょうだと思うようになりました。ちょっとふしぎなお話でした。

「ちょうのおんがえし」

はっとり せりか

わたしは、「白いぼうし」を読んでふしぎな気持ちになりました。

なぜなら、松井さんが白いぼうしの中からもんしろちょうをにがした後、タクシーにもどったら、白い服を着たおかっぱの女の子がタクシーに乗っていたからです。ふつうのタクシーは、お客さんはドアから乗るのに、女の子はどこから乗ってきたのかわからないからふしぎに思いました。

さい後まで読んで、女の子がちょうだとわかったとき、ちょうは自分で飛べるのに、どうして女の子になって菜の花橋に行くように松井さんをお願いしたのか考えました。わたしは、ちょうはやさしい松井さんなら、家まで送ってくれると考えたからだと思いました。また、ちょうは、ぼうしからにがしてくれたお礼に、松井さんにたくさんのちょうや花を見せてあげたからだと思いました。さい後の、「よかったね。」「よかったよ。」という小さな声には、そういう意味がこめられているのかもしれない、

私は「帰り道」を読んで、自分は律に似ているなと思いました。どうしてかと言うと、何か選択しをを与えられたときに、悩んでしまいみんなの迷惑になってしまったことがあったからです。そして、律のようにどちらも好きなのに、分かってもらえなくなってしまうのです。

私はこの物語を読んで律と周也のすれ違いを感じ、言葉で自分考えを伝えることの大切さを学びました。この物語の中で、「言葉」は、律と周也が分かりあえる一つの手段だと感じました。なぜかと言うと、最後の場面で二人が仲直りするときに、律の言葉で二人が分かりあえたと思ったからです。

もし私が律だったら昼休みに周也になぜどっちも好きかを伝えたいです。なぜならその方が周也が分かってくれると思うからです。

最後に私が思うこの物語の特ちょうは、二人のそれぞれの視点から書かれているところです。こうして書かれていることによって、相手の行動へのとらえ方を見て、律と周也の想いのすれちがいがよく分かる、とても面白い作品だと思いました。

5月17日作品

土曜パラダイスで紹介

小学4年1組	山本 央理	「学校の 仲よしめあて がんばるぞ」
小学4年1組	梅田 惇平	「こどもの日 かぶとかぶって たのしいな」
小学6年1組	入江 友	「木の芽見て 感じる立春 嬉しいな」
小学3年1組	上田 楓	「なつやすみ もうすぐにほん たのしみだ」
小学4年2組	濱石 実咲	「よねんせい 先生やさしい うれしいな」
小学6年1組	野中 準矢	「温かく 春の始まり 立春か」
中学3年1組	K I	「春風の 暑さ感じて 夏近し」
小学6年1組	小澤 玲奈	「さくらもち みんなで一緒に 食べたいな」
小学4年1組	伊藤誠一郎	「さくらもち のどにつまって 大騒ぎ」
小学6年1組	清水 彩加	「先生の シャツの色は カラフルだ」

ダジャレコーナー

小学4年1組	西脇 楓悟	「ちょうの ちょうしが ちょうへんだ」
小学2年1組	宮裕 璃子	「しるの しゅるいを しる」



ヒゲ森の言葉の森・探検

怒りの静まるとき、

後悔がやってくる。

ソフォクレス

紀元前497年〜紀元前405年 古代ギリシャの劇作家

怒りかられて行動に移すと、怒りが静まるとともに後悔することになるので、要注意。

しつぷう もくう

櫛風沐雨

様々な苦勞を体験すること。「櫛風」は風で髪をとかず、「沐雨」は雨で身体を洗うこと。